

小治政組番

浪

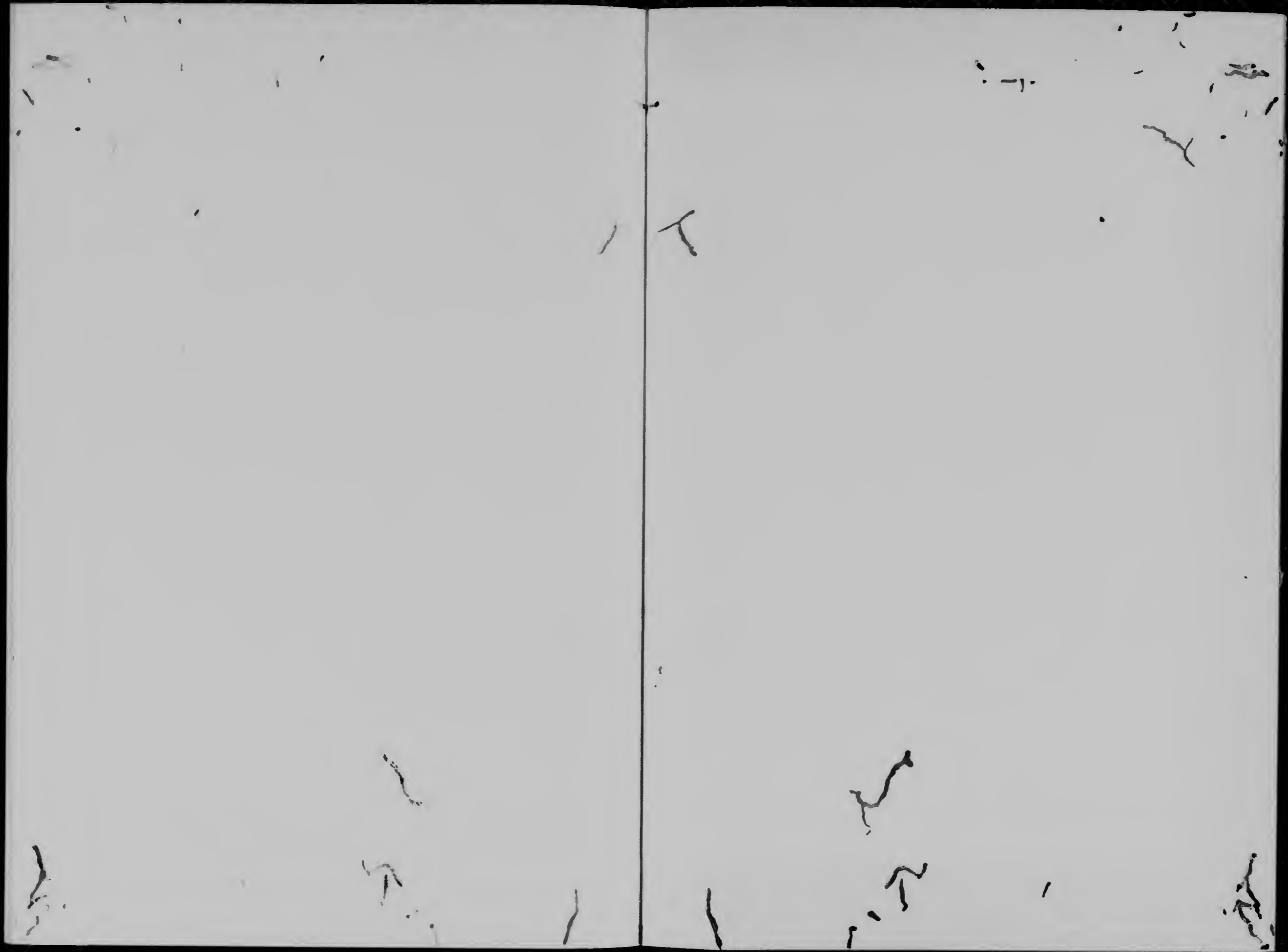
庫	文	内	内
一	三	三	和
二	二	二	書
函	九	五	
一	二	六	
七	冊	九	
架		號	

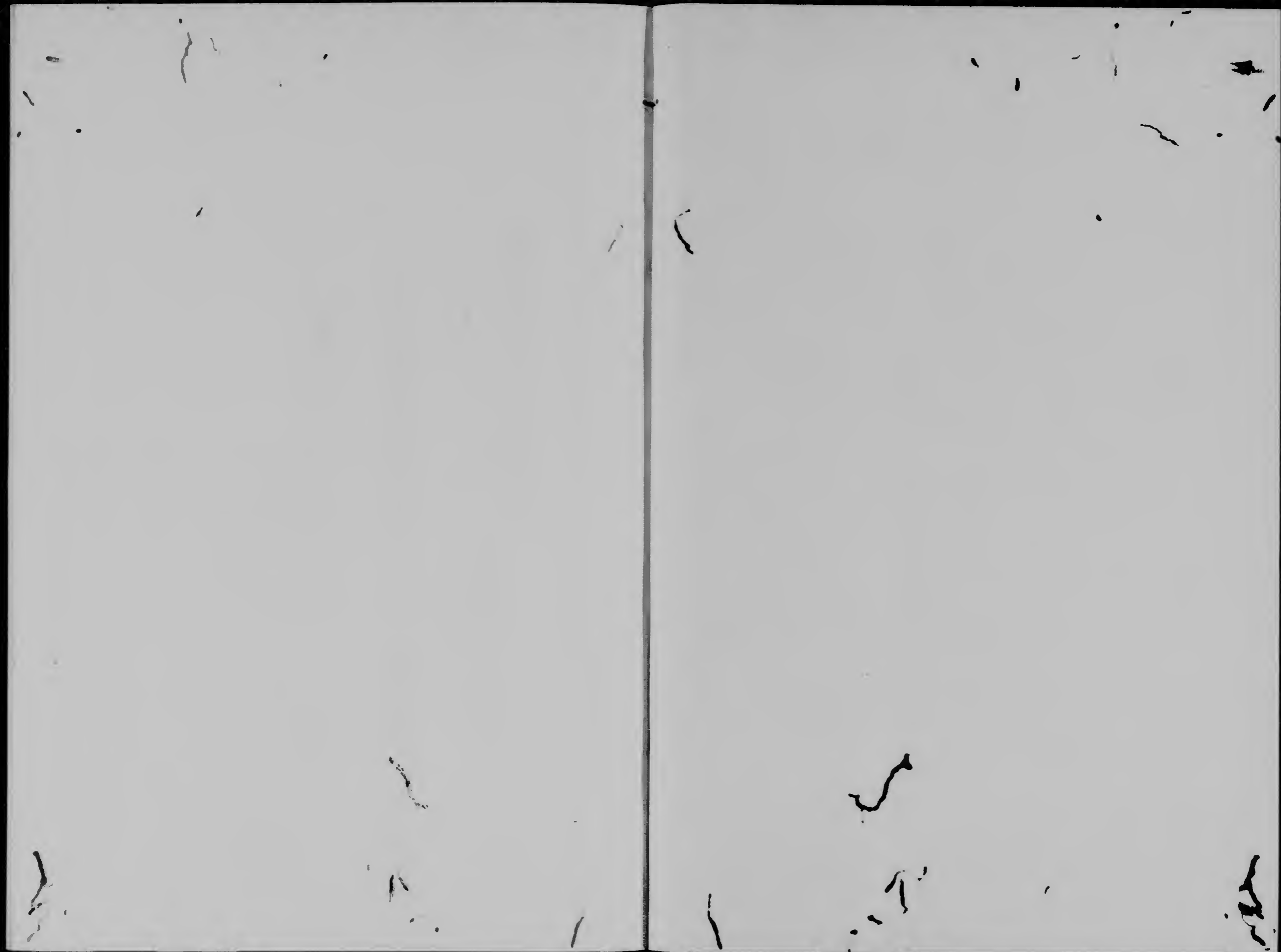
第百七十二函



内閣文庫
番號 和 32569
冊數 394 (351)
函號 152 121

共八





寛永九年八月十八日

奥山養堂の主人為

小十人

小十人田中市重徳組 言者 奥山養堂(安徳)

寛永十年年五月廿七日小十人組

正保元年申年十二月十六日小十人

正保元年申年十二月十六日小十人

正保元年申年十二月十六日小十人

正保元年

慶安三年九月廿日

井之卯記稲富森を文地州の事

にて軍備を以て小栗長左衛門
眞山前衛の二を元以來の會井と
稱爲す。川分け双方に不故を惹
きて和を結ぶ程長坂丹波へ
和後の事と亦合明の六日長坂丹波
の郎めし和合を以てむす。十三日
あ小栗長左衛門の時めし丹と稱爲す
會して矢和の酒宴ありて一時愛の
逢速の心とす。又傷小栗長左衛門
長坂稱爲す。果しては是事
將軍家きよくは是安重の和を以
溝とては毎同僚として後方派

至中に行じり免いしそ又傷に
及をさふんとて十一月田つす。と
作かうは是よりとて家小栗と
稱す。是より明の
慶安四年四月廿日
大猷院殿薨御のよりと承り。案年
の鴻恩之感。一を以て明の廿一日
服切て死す。とある

寛永九年八月十八日

是日外記也吉三男

小主人朝宗助左衛門組

小主人田中市重右衛門組 百後 是日奉書也晴

後六之助

玉虫浦

寛永十七年五月二十日去至之間計數

今后百十後之如法八九二言

五十後之後家

寛永二十二年八月八日新計數

玉虫八左衛門組

寛永九年八月十八日

多居又左衛門某願

小十人小常平吉組

小十人田中市書卷組

三言信

鳥居又左衛門某

寛永十九年十二月六日拂方御納戸

寛永九年甲申年八月十八日

大御前御座殿内御座内御座三男

小十人田中市御座内御座 百俵 富永松三郎守和

改十重金

五重金

三月辰原米百俵十日三拾五

慶安元子年二月廿六日拂方御納戸

寛永九年申年分月十八日

小十人田中重春組

後三右衛門

二右衛門 梶

金平定年

後左衛門
口位下

定年實ハ落派控在座ハ次男
めくろく免父ウ子なるのじ
坐に書むおなるるに父ウ
實子生道りハ自ら次男と
のミ称一石出さる時小十人
此格ぬり一と控む六の坐成

本高書松平石見守組梶波重春正利養子也成

小十人旭女入る色きり

之石原年二言後と経る

寛永十^戌年夏秋(堂らせり)

所供ふとさうむ

之石二言後と加(後む凡言後

寛永十六^卯年十月廿二日所茶也之役

寛永年津川とら事とふす

所小畑戸

慶安元^{乙未}年四月六日燃る

日光の所供(廻)合二十五日

法也

慶安四^{己未}年

大猷院殿堯冲の后日光山の所堂守

と小橋侍之帝加殿甚助也令せ

ら色(一)にう(一)大海(一)中(一)年

所厚恩とびく(一)も(一)さ(一)る(一)衆

形(一)を(一)ら(一)し(一)所(一)堂(一)守(一)と(一)令(一)せ(一)色

所加息六百石給つと凡千石

兼意三^{乙未}年四月二日日光山

大猷廟と造(せ)ら(る)を(行)と

令(せ)ら(る)色(は)り(先)

兼意三^{乙未}年三月晦日叙爵作

物(一)と(一)色(一)左(一)右(一)統(一)と(一)行(一)と

明暦元^未年二月朔日日光

ふると多門て相得一二月昔
沙眼と流る是ふると志んく
江戸に集る

天和三年六月二日從四位下に
勅せし色御加恩千石凡二名

同年同月廿四日御座の間に
召して沙眼沙手は法徳院
かて流る

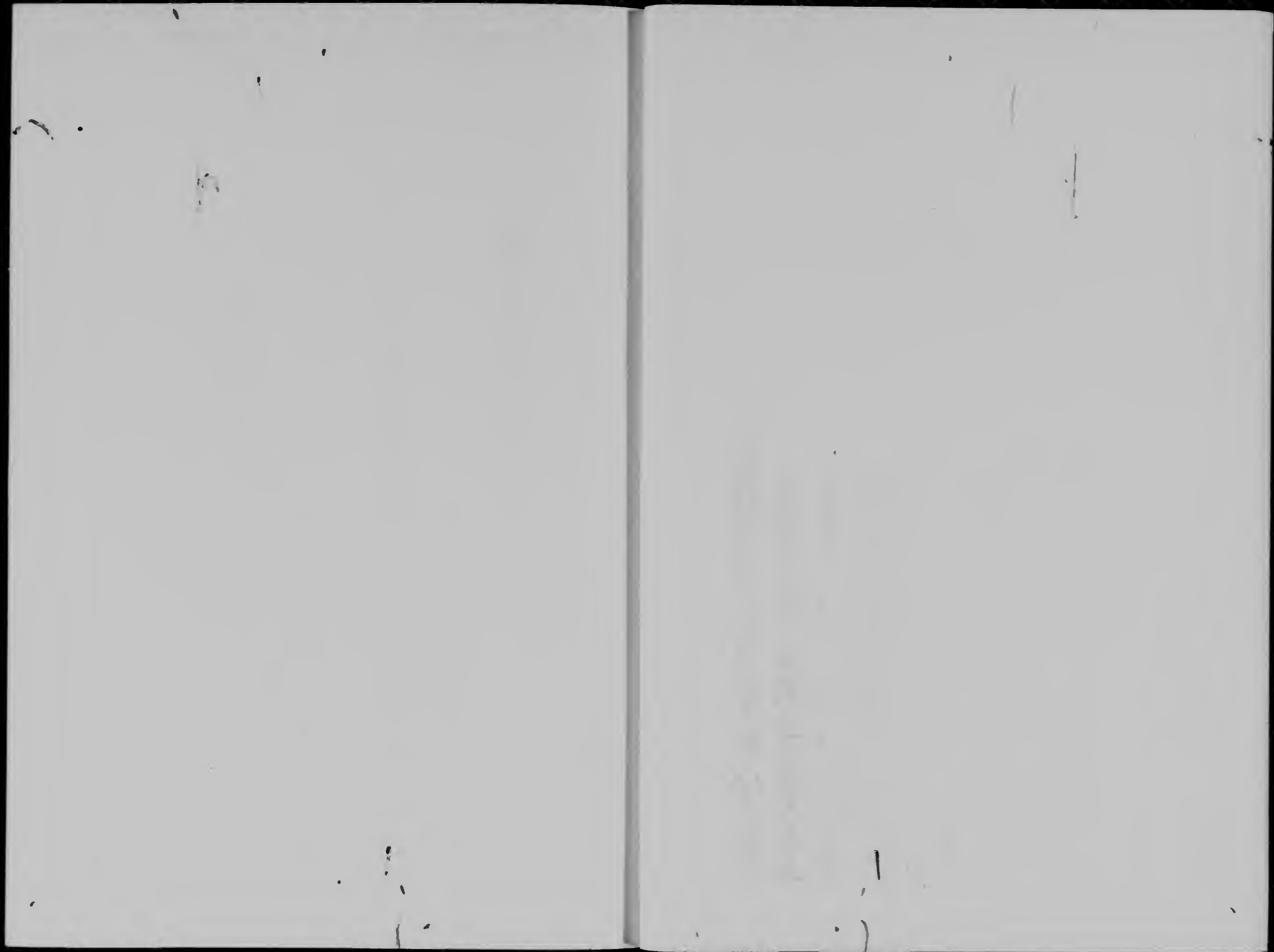
元禄十三年六月日光より入
病かろるより一と徳一召し色

長田松左衛門と成て召し色
流る

元禄十三年六月十日卒八十七歳

定年之骸と日光山の禁大忌山

お送家 定年よりて嗣子の事と沙がはあり
我目た及すしとて名て后二十石と収ら色と僕従小節、
と節と成て沙教書小命と色と召し色と定年と生瀬の
いこと一ちけてめと入る二と召し色と



寛永九年八月十八日

小十人田中市裏屋組

後三右衛門

萩原平兵衛昌世

御意に依り萩原平兵衛昌世次男

一七右衛門と後三右衛門又百俵と案在

て加(後三右衛門)二百俵

寛永十九年十一月六日御納戸

寛永九年申年八月十八日

小十人田中市右衛門組

大御方御前守組様御前番立利猶子御男

百俵

梶太師右衛門正連

後二百俵

後新在御

二百俵

二百俵又百俵と加へ給ふ凡二百俵

寛永十六年十月廿三日御禁込之役

寛永二十年八月廿日新沙場安西

甚長隊組

めくれず

寛永九年八月十八日

小野左馬助高成三男

又御高松年出重守源正高成男

小十人田中市御高成組

百俵十口

小野忠三郎高勝

改右左衛門

二名后藤家十口と経る

二名后藤と経る九百俵十口

寛永十八年十月廿六日小十人組改

二名后藤加三二名俵九二名俵是近の

十口ハ一ノ一奉家

寛文二寅年十月十五日御旗地

草笥を以

延宝八申年四月十日死七十二歳

寛永九申年十月九日

小十人田中市南右衛門組

八丈橋沖代信豊福友進在左の忠次四男

十日

白井平兵衛勝久

後百俵十日

勝久白井氏と名乗来平八申年

信忠に与りてなりと

その後十日と信す

その後百俵と信す凡百俵十日

正保二年六月廿八日小十人組取

同年十二月廿八日沙加恩二百俵凡

三百俵是までの十日ハウ一孝家

寛文五年九月十日

本理院君(属せり)御加恩二百石
下野國のうちありて下り元又百石
寛文十二年七月廿三日死

寛永九年十月九日

大田吾妻左衛門

大田吾妻左衛門

小十人田中市市右衛門組 百俵古 大田平左衛門好親し

大田平左衛門百俵十日と経り

寛永十九年十二月九日御納戸

寛永九年^{甲申}十月三日

小十人田中市御在座組 百俵十口 豊海七長濱恭利

公儀御代豊海御在座の忠次三男

之後彦宗百俵十口と成り

寛永十七^{辰年}八月十日^{新二九}

御宮御殿番

寛永十九^{午年}二月十二日御留守
居番長井又右衛門組与力と命せし
御廊下橋御成口北廻云流と智次
之後塩見御番と智次

兼應二年二月十日御申緒廻り
勢に引いて宗知二百石を給家
寛文元五年二月十日勢廻りまに
致仕す
延宝七年八月十六日死

寛永十二年

小十人田中市重在組

小十人田中市重在組に在る諸忠勝助順

古 長部玄清忠茂し

後百俵十日

二十石十日と給りし

二十石百俵と給りし凡百俵十日

寛文二年十月七日位小十人組既

同年十二月廿日沙加恩百二十俵凡

三百俵是よりその十日八厘算に成し

治家

寛文七年六月廿日父共如是

院少度此料多分ハ遺跡ニ於テ
寛文十一年九月廿八日死ニ十四歳

寛永十九年二月九日

小十人町市置(置)組 百俵十口 依後傳助某

御廣浦番依後傳(置)某惣願

後三百五石

正保元申年十二月廿八日百俵米百俵
十口と置(置)

慶安二年十二月十四日百俵目三百二

十石是迄の百俵十口八返一翻家

慶安三年九月三日新組小十人宅間傳助組

正保二百年二月二十日

御宗助美照勝三男

小主人保三郎彦右

小主人奥山彦彦右

百俵

朝比奈傳彦彦右行し

慶安三年

九月四日

新組小主人組歌

同年十二月十七日沙加恩三百俵凡

三百俵

寛文三年四月日光の御供小

通八世善白浪及子孫子

延宝元五年二月十二日死

正保四年十二月廿六日

小十人奥山家集組

小十人集

百俵古長初指之物

寛文七年二月十八日新沖番青山
右右集組

正保四年十二月廿日

榎下六左衛門憲清三男

不詳家祖於榎下屋敷重定并

小十人奥山藏齋組

古

榎下平兵衛憲重

後百俵十日

慶安元子年四月十日之迄

慶安三子年十二月廿七日迄

百俵

万治元子年七月十九日新中安野井右京組

正保四年十二月廿日

小寺真山藏書組

御書外三人
三原 松風左藏某

寛文三年四月日光の御供に
あつこうを

穉入太久保

右京亮組

寛文十一年六月廿九日常々
端にうめて松平甲斐守（右様ら
し）子作知りて三百と収らして取遣

冬

正保四年十二月廿日

小十人集山菅巻組

松浦吉重(吉成)男

河津院本多兵衛守組守而吉勝伯父

十日 松浦源次郎重勝

後百俵十日

慶安元年五月廿日十日と給ふ

慶安三年十二月廿七日原庄百俵

と給ふ

寛文六年二月十八日小十人組取

同年十二月廿三日百俵之給(法之)

凡二百俵十日

天和二年四月廿三日並法加意百俵

凡二百俵十日

元禄二年四月九日御所失火事

老輝大之保

玄蕃頭組となり

宝永六年十月十日死八十九歳

正保四年十二月廿六日

小十人奥山蔵在組

南支組元福井在組の四三男

十日 福井七郎在組之長

後百俵十日

改 徳左衛門

慶安元子年三月廿十日と法り

慶安三年十二月廿七日廟堂百

俵と法り

寛文三年三月日光の法供り

あり

寛文五年十月十五日小十人組元

同年十二月廿六日法加恩二百俵是迄

の十口八収り色凡二百俵
寛文六年正月十九日死

正保四年十二月廿日

小十人真山茂左衛門組

伊廣安源為村系三子重勝無願

十口 村系源三郎重春

後百俵十口

改甚左衛門

慶安元子年 旦月又日十日之治了

慶安三子年 十二月廿七日席系百俵

之治了

慶安四年年

大猷廟御遺骸日光山(御出櫃持時

沙供小之ころ云

延宝二年十月十一日死

正保四年十二月廿日

御去後安元之改元

小十人奥山茂登組

十日

蜂谷八郎登の改春

後百俵十日

後百俵十日

慶安元子年四月廿十日と終り

慶安三寅年十二月廿七日高宗元百俵

と終り九百俵十日

寛文三年四月日光の御供と過す

寛文六年六月廿三日死八十二歳

正保四年十二月廿日

久留忠房三男

大押酒井三夜守祖七郎重信正親

小十人奥山茂春組

十古

久留八郎重房吉屋

後百俵十古

慶安元子年四月廿十日

慶安三亥年十二月廿七日

俵と結了凡百俵十日

寛文三年四月日光井伊供也

三三三

延宝四年年辞入戸田後後守組

天和元年八月十一日死

正保四亥年十二月廿日

小十人奥山菅倉組

小十人奥山菅倉組又前番正保数願

古 真方又共清心也

後百俵十日

百中又石
百中又俵

慶安元子年四月廿十日と経り

慶安之亥年十二月廿七日高米百俵

と経り凡百俵十日

寛文之卯年四月日光の御供進を

元禄三年定比武州児島郡又十子

村年毎に不替少なり凡ハ高米

百五十五後小少入治家
元禄六十年八月十日死

正保四年十二月廿六日

小十人奥山菅在組 古 山田菅在元明

後百俵十日

奥方沖山菅在組元清惣願

慶安元年正月廿十日之経

慶安三年十二月廿七日廟

百俵之経

寛文二年十月廿六日元方沖納戸

正保四年十二月廿日

養後於三節後(養後三男)

南友在寺無系守祖三子前平治父

小十人真山岩倉組

古

安濃初次岩倉明

改 七十一

云云

慶安元年正月廿日
慶安二年九月三日
祖小十人岩倉市岩倉組

慶安三年九月三日

小主人真山翁齋組

若君振冲乳之人川崎之為熱願

十日 川崎吉重齋知高

後百俵古
二百俵

知高の母川崎ハ川崎六郎齋三利
の息女ありて版田惣之衛之久々妻
坐好の男子三人女子一人とすけ
及ハ侍と成りて京師東山光雲寺
此任職とあり賢長老良賢と云
次男知高ハ是の侍とありけり

伊達家に仕へ三男又左衛門長繁の
后小十人組小十人組出さる姉ハ卯中
まで大奥おほほへ后老女おほほ
川崎ハ寛永十八己年

嚴有院殿の御乳人おほ出さるし
后知事知事おほへ又左衛門長繁と
おほへおほへ小十人組おほへ
慶安三己年十二月廿七日と経る
兼徳元己年十一月十八日席書おほへ
と治る

明暦三年十二月廿六日一母
川崎お格とを免らさるは川で

万治元成年七月十九日新洲書大野三郎席
組
伊達家
おほへおほへ
是川崎の藩速ゆて
取寄おほへおほへ

慶安三年九月九日

深尾掃部元次四男

大洲中根大膳守組金春元次男

小十人奥山茂左衛門組 十日 深尾四郎長清元吉

後百俵十日

同年十二月廿七日十日と給上

兼應三年十二月十八日高倉百俵

と給上凡百俵十日

延宝元年十二月廿一日掛方沖納戸

兼應二年六月 日

唐系九左衛門兵衛次男

小十人細井依次郎明正組

小十人阿倍八之丞組

百俵古 庵系源兵衛正成

改正左衛門

寛文三年四月日光の沖供小

為さうか

延宝七年十月廿九日拂方沖納戸

養應三年二月廿七日

寛永十八年 月 日 曾目

下山基房光忠物願

小善信福垣若狭守組

小十人三宅傳登組 百五拾 下山基房光忠次

寛文三年二月十日御旗物榮込役

同年十二月廿六日法加恩百俵九百

又十俵

天和二年六月三日新汗番武田

興丸信組小入

万治元^戌年十月三日

明暦元^未年十月 日録目

小十人新衣与惣若狭組

高橋又左衛門某殿

小若狭

三信 島居又左衛門某

延宝四^辰年十月 日死

寛文二寅年十月九日

万治二寅年十月廿二日分給

小十人新名典親右衛門組

天正左衛門忠満又男

御書外之人

百石 天野若八郎忠勝

後百石十日

同年十二月廿二日と是しあひ

九百石十日

寛文三卯年四月日光の御供承隨分

寛文十一寅年十月十二日小十人組既

同年十月廿三日沙加恩百石後是迄の

十日も二重に治り九百石十日

延宝四年 月 日死

寛文二年十月九日

内大臣藤原成美殿

小若侍

少人新名典題在番組 百俵古 内大臣権左衛門勝忠

寛文三年四月日光の湯供と隨云

延宝四年 月 日

寛文三^亥年十月九日

小十人新^元興^起若^彦祖

小十人組長若彦祖

朝比奈平助勝義

後百俵十日

後半在馬

同年十二月廿二日と終り

寛文三年四月日光北御供小

考り

寛文四年十二月廿二日唐菜百俵

と終り凡百俵十日

貞享二年六月廿日小十人組

同年十二月廿三日沙加恩二百俵

是よりその十日収らば凡三百俵
貞享三年四月十八日死

寛文六年十一月三日

小主人新元共敷在御組

小菅清治
言者真方在御

寛文六年十二月六日

寛文三年 月 日 添目

中根六右衛門正信 勘

小巻信

小十人新立興物在座組 三言後 中根六右衛門正信

後六右衛門

貞享三年十二月十九日 拂方御納戸

寛文七年十二月初日

鈴木権之助重勝官男

新院中前附鈴木権守重泰官

小主人新松与重右衛門祖

古

鈴木文三郎重長

後百俵十日

同年同月廿七日十日と経了

寛文八年十二月廿六日唐屋百俵

と経了凡百俵十日

寛文十年三月七日死二十二俵

寛文十一年四月十日

小十人秋山源齋組

小十人秋山源齋組其齋重春製

古 柳系正市重長

後百俵十日

改平百俵

同年十二月

日十日

延宝元年

五月

日唐系百俵

と修了

延宝二年十月十日父共姉と

あし洲の料お好しり九八遺跡

と修了

元禄二年六月十日小十人組改

同年十二月廿一日沙加恩百俵元言
俵

元禄三年十二月廿六日沙没料
百俵

宝永五年六月八日死

寛文十二年十二月各

小支秋山源登組

大坂河具屋源次郎福三平登(信定三男)

十日 福三八登(定長)

後百俵十日

改平四郎

同年同月廿六日十日と信定

延宝二年十二月十八日唐采百俵
十日と信定

之后年月三三二於次本所

石原あゝ四百俵若郎(他小治)

元禄六年十一月九日新汁番武田興左衛門
組

延宝己未年二月十日

寛文二寅年二月十日

小支秋山源左衛門組
百俵古 森 小左衛門種要

森惣右衛門種長殿

小支源左衛門源後守組

延宝六年六月六日 拜入 戸田後守組

元禄十三辰年七月六日 致仕

同年八月廿二日 死 六十八歳

延宝六年三月廿九日

延宝三年七月十日分知

小支秋山源登組

後延三年高保高

小支信板倉市正組

二言 服部忠右衛門保高

改七言信

貞享三年十二月十九日御腰物奉引

延宝六年三月廿九日

小十人秋山源左衛門組 百俵十日 庵原金右衛門忠親

小十人秋山源左衛門組甚長門正成惣願

延宝八申年三月廿六日庵原百俵

十日と終了

元禄十五年五月廿一日 元方 元方御納戸

延宝六年三月廿九日

寛文十三年十一月十日 源目

加藤高直の義体五願

小室彦板倉市正組

小室秋山源登組

三言後

加藤重之助休長

改高直

貞享元年八月十八日新井安武田年久遠組

延宝六年二月廿九日

小主人秋山源齋組

拂方所記戸浦忠格藩重於忠臣

百俵古

浦野格之助重義

後二百俵

改新三節

格重藩

同年四月廿一日十日と後日

延宝八申年三月廿六日唐米百俵

と後日と凡百俵十日

貞享元年十二月六日唐米二百俵

是所の百俵十日と一の家

貞享三年七月十二日小主人組取

同年十二月十一日涉加恩百俵凡
三百俵

元禄十一年二月 日辞入松平
主斗次组

元禄十四年九月十六日死享年三十一

天和元年二月廿六日

寛文四年正月十日

小次郎山源左衛門组

伴野公重(貞重)重子

小善治松浦内蔵元组

百俵 伴野左衛門(貞春)

元禄十五年三月十八日新津中島武田左衛門
组

天和二年三月廿一日

寛文九年十月三日御出書通
延宝元年十二月十日御目

小十人渡邊孫助組

昌平
三右衛門

蜂屋元常正勝

政三郎

元禄六年五月十九日元方所納戸

惣奉行書付正次書子

御目書通

天和二年三月廿日

同宮長元帝元盛惣願

寛永十九年 月 日 添目

御手書通

小十人後透孫助祖

百俵 同宮長元帝利盛

後百俵十口

正后十口と加へ給ふ凡百俵十口

元禄十二年十月廿九日 譯入村 誠守孫守祖

元禄十三年四月十三日 死六十七歳

天和二年三月廿日

延宝六年年月 日 源目

根本又左衛門成藏忠孝

御手書通

小十人渡邊孫助組

百卒

根本久平貞成

改産云備

元禄九年三月廿日 許入申根大隅守組

宝永二年九月八日 死

天和二年四月十日

万治元年十一月十日

小十人後造孫助組

言奉 今福次美勝行

改刊於左

元禄六年十一月十日所腰物方

今福次美勝正助

因也

天和二年九月廿五日

小十人渡邊孫助組

百俵古

内後源六郎重次

改半之儀

小十人中根守右衛門但重孫重次郎

同日唐宗百俵十日を給ふ

元禄十五年九月廿六日於座小十人組既

同年十二月廿二日沙加恩百俵凡二百

俵是迄の十日に収らる

元禄十五年七月十八日跡目二百俵

石是迄の二百俵に返すなり

正徳六年二月十日西城の御切

沙門書の歌

享保二三年七月十五日死七十一歳

天和二年十二月各

天和二年七月十五日

小十人渡邊孫助組

駒井助左衛門佳成惣願
伊馬方

百五保 駒井孫三郎信成

享保六年六月二十とせこの
此の宿直にうけなるとせ小判
と給ふ

享保八年三月朔日老辞賜小判八十入
彦保
漢語守組

享保十二年九月十四日死七十歳

天和三年九月廿日

安宝八甲年九月七日

小文波色孫助組

依後孫三帝某

依後孫門果惣順

小善後

元禄八甲年 月 日死

天和三年九月廿日

小支細井全又節組基元(正友)親願

小十人渡邊孫助組 百俵十口 小林才之丞定英

改新一年

台右衛門

同日唐米百俵十口と給ふ

元禄三年九月廿三日父共姉共

より新の科の給ふ一六八遺跡と

形寸

正徳二年二月廿日死

元禄六年二月十九日

貞享元年十月 日録目

小十人兩宮権左衛門組

吉田左衛門権次郎

小善後

二百三十三
三斗六口

吉田新次郎種明

元禄八年十月十日 拂方御納戸

元禄六年五月十五日

貞享元年七月十二日

小十人兩宮權登組

西山源昌重忠子

小菅清太保玄蕃殿組

百依古 西山源之助昌生

改源云

元禄十三年十月六日新中津波本多市登組

元禄六年五月十九日

貞享元年十一月十日家督

小主人雨宮権左衛門組

弟徳治左衛門宗明殿

小主人権左衛門宗明殿

百景口 美濃右左衛門宗明殿

改十助

元禄十五年四月廿三日死

元禄六年五月十九日

天和三年七月晦日同日

小十人雨宮権佐組

御表書南左衛門某助

小善信

百儀十日

御表主水某

改忠三帝

甚助

元禄十二年四月廿七日斬罪

同日洋定所に石うれて去一分

廿九日嘗中宿直の時相違伴野
海去左衛門右宿意のりりめりり
監兵隠密一奉言く石居のいそ
ありとて斬罪も度せらるるひ

近後後中守用章傳(一)百後十
と収りて家絶之なり

元禄六年五月十九日

天和三年二月 日家留

小十人雨宮權左衛門組

安井九郎左衛門信房兼願

小笠原元友上野共組

小笠原 安井常左衛門信成

内三子後 政 権左

同年十二月十八日康永十條小十
口七加(結云)凡百石十日

元禄十四年五月 日輝入太保玄蕃院
組

元文元年十一月廿六日致仕
延享三年十二月九日死八十一歳

元禄六^百年十二月九日

小十人兩宮権左衛門組

百俵古

長田孫八郎義時

小十人蜂屋信隆の組と新屋の義道忠順

改舎人

元禄七^百年

月 日家督父子

那な一高^{たか}有^あ是^こハ別^べの作^し出^しる也

元禄八^百年四月廿日死年十三歳

元禄六酉年十二月九日

小主人雨宮權左衛門組 百俵古 深沢七右衛門信政

小主人野傳口部組伊豆信室殿

元禄七戌年正月廿九日原米百俵

十日と治り

宝永三戌年八月朔日 死

終生

元禄六年十一月九日

御代官平景春の道清殿

少人兩宮指在組 百後古 平景源七帝道章

後深草

元禄七年正月廿九日唐茶百後

十日正終了

元禄十六年三月九日任元方御納戸

元禄六酉年十二月九日

小十人雨宮権左衛門組 百俵吉 过 寛左衛門守輝

河内國所代官过还左衛門守輝

元禄七戌年正月廿九日 高宗百俵

十日と経つ

正徳又未年二月廿二日 部屋 小十人組

同年十二月十八日 沙加屋百俵

二百俵 芝屋の十日返一草家

享保二酉年六月九日 父共妙

高宗なるに遺跡之形

享保九辰年五月朔日新沚後
寺新組頭

同日勢此うち又百俵高めの
魚しと作さる

享保十二申年五月十九日死六十三歳

元禄七戌年五月九日

延宝元丑年林田伊敏と彼出

梅次之史重臣願

小十人兩宮權奮組元禄田藤 二小菅 林又而奮組重澄

改忠の節

享保年中釋入酒井大學子支配

享保六丑年十二月十三日死六十八歳

元禄七年五月九日

珍本信吉三男

慶安四年十月
徳松君被石出

小十人兩宮權左衛門組

元禄四年
小笠原小宗安房守証
言于後 珍本新六郎重連

元禄十一年四月廿二条河原辻地直

同年月日涉順美金一

時後三子孫了

宝永三戌年九月廿七日現承十

石子孫了

正徳元年二月十日於京都此

官舎死七十六歳

重忠の骸と系那の長遠寺に
送る

元禄七年八月九日

元禄五年七月廿八日

若本甚左衛門盛之助

小善信長親母殿

小十人兩宮権左衛門組 三信 萬本甚左衛門盛房

宝永六年九月十日小十人組

享保二年三月廿三日涉段小善
二の事河邊小善信長に
入る道塞
をくしと作出さる
入中川伊勢守
組

享保四年八月二日
有馬内膳

支配

享保十三^中年十二月廿六日致仕

之利^りとて^り不^らぬ^べし^と云

享保十九^寅年正月廿七日死六十^三歳

元禄十五年七月廿二日

元禄七年七月十日家督

小主人渡辺河内守組

瀬戸左衛門重真惣領

小若沼河内守組

言依 瀬戸覺左衛門仍正

改元左衛門

正徳元年^卯年二月十九日禪入大橋肥前守組

享保四年八月二日為伊丹覺左衛門

支配

享保十九^寅年十月廿日死七十^三歳

元禄十五年七月廿二日

元禄七年七月十日家督

小主人渡邊河之助組

二百俵 逸見河内義有

逸見市義有の子
小主人渡邊河之助組

宝永三年十月十八日元方沖納戸

元禄十五年七月廿三日

元禄八年七月十日

小舟渡辺承之助組

二百俵

伴野右左衛門某

改係奉馬

元禄十二年四月廿七日

同日評定所に召されてお着被後

甚助と借敷の出入となりしを

口取石引跡ありし不持の至りしを

改易に處せらるひは道後守

用章侍へて二百俵と収らるる家

是なり

伴野右左衛門某

小舟渡辺承之助組

元禄十五年七月廿三日

長田舍人義時書

元禄八年七月十日

小菅信昌致丹波守組

小菅波邊所之助組

百景

長田孫兵衛義宗

年號月日不知詳入松茶屋守組

享保三年十月十日

元禄十四年六月十日

貞享三年月 日 源目

小入渡邊河之助組

将除命元経貴子

小笠原村誠守組

百平右 本村吉之丞元尚

享保九年七月

日 輝入酒井源政守組

享保十年十二月十九日死

元禄十四年六月十日

布施正庵(忠則)終願

小笠原村或信(信守)祖

小十人渡邊保之助祖

再勅

百後十日

布施三平忠胤

元禄十六年九月三日拜入松平主計政祖

享保四年七月十日死

元禄十四年六月十日

中野中園上役氏平右實重通願

小十人渡邊氏之助組 百俵古澤平三郎心實

同年十一月廿二日唐宗百俵古

子信了

宝永七寅年三月廿二日初九死二十九歳

元禄十四年六月十日

内田八重松正斗死組

小笠原松平主斗死組

元禄六年七月 日録目

小笠原透河之助組

百俵言

内田二十市公泰

後百俵十日

改八百俵

同年十二月廿七日七加(法元凡百俵十日)

宝永元年

申

年八月十二日祥入足利周防守組

宝曆三年七月十九日為徳田

云云又帝支配

宝曆四年八月廿六日死

元禄十六^未年二月廿六日

元禄十二年七月 日曆

小文渡邊氏之助組

久留次郎左衛門清忠子

小善後傳口松津守組

百俵古 久留孫左衛門改時

享保三^戌年三月廿四日死

元禄十六年二月廿六日

吉川彦左次親魚願

小善信一柳右衛門守組

元禄十四年二月廿四日

小十人渡邊源三助組

元平院附

三善信

吉川新八正安

正安元禄十五年庚申より下り

小善信小入

享保十三申年四月日光の御供養

享保十二戌年十二月廿六日死七十一歳

元禄十六未年二月廿六日

貞享元年十一月十八日家督
貞享三年十月廿九日御天守番

千種忠房御重惣願

御天守番

小十人渡邊清之助組

百奉儀

千種忠房御精

同日勝精の祖父元忠房勝正

神祖小天下正又亥年九月より先て

石出され累代の者ありては小十人

組に入らるは作と為る

享保三戌年二月廿六日小菅藩方

同年十二月廿九日傳奏館と造

らせらる御用と申すは也

享保四亥年三月十九日始之
事に芳乃りて中て白浪たふしに
享保九辰年四月 日輝入太久保
下野守組
同年六月廿七日死七十回

元禄十六未年五月廿六日

小文渡透承之助組
高田七之丞良賢

元禄十五年十一月十八日

高田藩臣有頼

小笠原一柳六依守組

改志在馬

享保四亥年十月廿日

松姫若孫御用達

同日沙汲料又十俵

享保又五年九月廿日

松姫若の所方逝去

十二月七日一統免され松和伊豆守

組とあり

享保十二^未年三月廿七日元組
小十人池田敷馬組一掃書

